

## 「身延線鉄道唱歌」 推敲協力をお願い

大岩 3 区の渡井勝士さんより、下記の「身延線鉄道唱歌」の歌詞をもらいました。この歌詞は、渡井さんの知合いの「小澤 肇」氏が作られました。小澤氏は南部町出身、現在富士市在住。終戦をパイロットとして迎え、戦後は鉄工場を経営する傍ら、(社) 全国自衛隊父兄会静岡県支部連合会会長等の要職を務め、平成 19 年には防衛業務推進協力ということで藍綬褒章を受章されています。平成 28 年 3 月現在で 91 歳。ご本人とお話をし、この歌詞のホームページや SNS 掲載の許可を得ております。

また、より多くの人の口の上のように、多少の言葉の変更も許可していただきました。七五調におさまらないところ、その土地を良く知る者には、この駅名にはこの事績の方がより愛着が湧く、などの、多くの人の気持ちや意見も聞きながら、微調整し、皆さんに親しまれるものにしてゆきたいと思います。

ただ、原作者の小澤 肇氏は、作詞に当たり、各駅付近の現地の図書館等にもおもむいて相当の研究を重ねたそうです。小澤氏の郷土愛や詩情、最初にこれを書きあげた独創性はすばらしいもので、そのお名前は原作者として残したいと考えます。また、皆様協力により完成の暁には、種々な場面で利用していきたいと思います。

推敲と完成後の利用の仕方等について、是非ご提案をお願いいたします。

なお、平成 28 年 6 月中旬、富士宮市の教育関係者の皆さんに歌詞の推敲をしていただきました。また南部町教育関係者の方々にも推敲をいただきました。歌詞の懸案事項、推敲の履歴、作詞者の経歴・近影など、大岩 3 区ホームページに掲載しております。よろしくご協力をお願いいたします。

富士宮市大岩 3 区まちづくりプロジェクト代表 松田 壽久

鉄道唱歌 (明治 33 年 5 月) 地理教育鉄道唱歌 東海道編 (歌詞は一番のみ掲載)

♪ 汽笛一声 新橋を はやわが汽車は 離れたり  
愛宕の山に入り残る 月を旅路の 友として

【身延線鉄道唱歌】 作詞 小澤 肇 (作曲 多 梅稚 (おおのうめわか)) (H28. 6. 15 版)

- 汽笛一声 富士駅を 我が乗る列車 離れたり (きてきいっせいふじえきをわがのるれっしゃはなれたり)  
三十九駅 九十軒 普通列車の旅とせん (さんじゅうきゅうえき くじゅうきろ ふつうれっしゃのたびとせん)
- 柚木 堅堀 入山瀬 近代製紙のおきたとこ (ゆのきたてぼりいりやませ きんだいせいしのもとになり)  
三大仇討ち 一つなる 曾我兄弟の 寺社もあり (さんだいあだうちひとつなる そがきょうだいのじしゃもあり)
- 右に霊峰仰ぎつつ 富士根にたなびく 雲の帯 (みぎにれいほうあおぎつつ ふじねにたなびくくものおび)  
富士宮は 登山口 浅間大社に湧き水に (ふじみやとはとざんぐち せんげんたいしやにわきみず)
- 西富士過ぎれば左に見える 安居山あたりの海の砂 (にしふじすぎればさにみえる あごやまあたりのうみのすな)  
川もないのに沼久保で 富士山しばらくさようなら (かわもないのにぬまくぼで ふじさんしばらくさようなら)
- 三大急流富士川に 沿って行きます芝川 (さんだいきゅうりゅうふじかわに そってゆきますしばかわ)  
筍・梅の産地なり 水と緑の富める町 (たけのこ・うめのさんちなり みずとみどりのとめるまち)
- 戦国武将信長公 首塚西山本門寺 (せんごくぶしょうのぶながこう くびづかにしやまほんもんじ)  
平家の落武者維盛の お墓が稲子の奥に在り (へいけのおちむしやこれもりの おはかがいなこのおくにあり)
- 稲子で駿河を後にして 甲州十島良いところ (いなこでするがあとにして こうしゅうとうしまよいところ)  
昔は十島御番所で 今は電車で自動車で (むかしはとおしまごばんしょで いまはでんしゃでじどうしゃで)
- 井出ては寄畑内船へ 南部の火祭り空焦がす (いでてはよりはたうつぶなへ なんぶのひまつりそらがす)  
奥州南部の祖の地なり 遺風は今に伝えらる (おうしゅうなんぶのそのちなり いふうはいまにつたえらる)

- |    |  |  |
|----|--|--|
| 9  | 身延の駅に降り立ちて 日蓮宗の総本山<br>五重の塔の再建に 枝垂れ桜が花添えて                 | (みのぶのえきにおりたちて にちれんしゅうのそうほんざん)<br>(ごじゅうのとうのさいけんに しだれざくらがはなそえて)                      |
| 10 | 信玄公の隠し湯の 下部で疲れ癒されん<br>湯の奥甲州金山は 武田氏支えた軍資金                 | (しんげんこうのかくしゆの しもべでつかれいやされん)<br>(ゆのおくこうしゅうきんざんは たけだしささえたくんしきん)                      |
| 11 | 市ノ瀬久那土甲斐岩間 印章で名高き里にして<br>向いの西島和紙作り 書家の望みの叶う町             | (いちのせくなどかいいわま いんしょうでなだかきさとにして)<br>(むかいのにしじまわしつくり しょかののぞみのかなうまち)                    |
| 12 | 舟運栄えし富士川の 要の宿場鰍沢<br>富嶽三十六景の 北斎描く景勝地                      | (しゅううんさかえしふじかわの かなめのしゆくばかじかざわ)<br>(ふがくさんじゅうろっけいの ほくさいえがくけいしょうち)                    |
| 13 | 市川大門は花火町 団十郎のでたところ<br>甲斐上野駅知恵文殊 夢々共々忘れなん                 | (いちかわだいのんははなびまち だんじゅうろうのでたところ)<br>(かいうえのえきちえもんじゆ ゆめゆめともどもわすれなん)                    |
| 14 | 笛吹川を打ち渡り 見よや果樹やら野菜やら<br>果樹王国と謳わるる 甲府盆地の花輪なる              | (ふえふきがわをうちわたり みよやかじゆやらやさいやら)<br>(かじゆおうこくとうたわるる こうふぼんちのはなわなる)                       |
| 15 | 四方の山に目をやれば 雲突く山脈いや高く<br>老樹の深き善光寺 石和の湯けむり指呼の間             | (しほうのやまにめをやれば くもつくやまなみやたかく)<br>(ろうじゆのふかきぜんこうじ いさわのゆけむりしこのかん)                       |
| 16 | 終点甲府は中央線 乗り継ぐ人も数多く<br>躑躅ヶ崎の夢の跡 武田の遺跡守れかし                 | (しゅうてんこうふはちゅうおうせん のりつぐひともかざおおく)<br>(つづじがさきのゆめのあと たけだのいせきまもれかし)                     |
| 17 | 時は人を替えれども 山梨静岡両県の<br>明るく平和な郷づくり 身延線と共に栄えあれ<br>身延線と共に栄えあれ | (ときはひとをかえれども やまなししずおかりょうけんの)<br>(あかるくへいわなさとづくり みのぶせんとともにさかえあれ)<br>(みのぶせんとともにさかえあれ) |

【現時点懸案、意見が出ている箇所】

- 7番 前節と「十島」が重なっているので解消したい。
- 9番 枝垂れ桜が「見守りて」⇒最初の「花添えて」に戻した。しかし季重のような逆効果か？
- 12番 昔から名所であった鰍沢のよい面を前面に出した。いかがか？

【身延線の沿革】

- |   |       |   |
|---|-------|---|
| 1 | 創設の認可 | 明治44年(西暦1911年)4月26日                                       |
| 2 | 社名    | 富士身延鉄道株式会社  |
| 3 | 資本金   | 4百万円  |
| 4 | 工事着工  | 大正2年1月8日  |
| 5 | 部分開通  | 大正9年5月18日 富士駅から身延駅まで汽車運行                                  |
| 6 | 全面開通  | 昭和3年3月28日(1928年)<br>富士駅～甲府駅 電車運行 88.4km                   |
| 7 | 国鉄移行  | 昭和16年5月(1941年) 日本国有鉄道 線名を身延線とす                            |
| 8 | 民営化   | JR東海 昭和62年4月(1987年)<br>社名 JR東海道旅客鉄道株式会社                   |
| 9 | 付記    | 身延線全線開通80周年行事と併せて富士宮駅高架化着工祝賀行事富士宮駅で開催<br>平成20年4月6日(2008年) |

【身延線鉄道唱歌に関する連絡先】

富士宮市大岩3区まちづくりプロジェクト代表  
 富士宮市大岩3区文化部長 松田 壽久  
 歌詞著作権 小澤 肇  
 著作権代行 大岩3区まちづくりプロジェクト  
 TEL 080-7012-6024 メール ooiwa39@gmail.com